

総務委員会 県内調査活動状況

1 日 時 平成28年10月28日(金)

2 委員出席者(9名)

委員長	永井 学				
副委員長	猪股 尚彦				
委員	中村 正則	望月 勝	桜本 広樹	杉山 肇	
	望月 利樹	高木 晴雄	安本 美紀		
欠席委員	(午後)意見交換会欠席		中村 正則	望月 利樹	

地元議員 山田 一功 清水 喜美男 (甲斐市)

3 調査先及び調査内容

(1)【消防防災航空隊】

消防防災航空隊について(消防保安課長より概要説明)

山梨県消防防災航空隊は、阪神・淡路大地震の教訓を踏まえ、平成7年4月1日に「山梨県消防防災航空隊」として発足し、同年4月26日に防災ヘリコプター「あかふじ」の運航を開始した。その後、平成16年4月1日に「山梨県消防防災航空隊」と名称を変更し、運航開始以来、今年で22年目を迎えたところである。

この間、山岳救助・捜索、林野火災、救急搬送、人命救助、県下各市町村・消防本部との合同防災訓練、一般行政活動など、県民生活の安全確保のため幅広く活躍している。

ページ中程の「1 活動状況等」であるが、(1)の訓練場にあるように、航空隊では山岳救助等の活動が、安全且つ迅速に行えるよう、韮崎市清哲町青木地内の標高900メートルの県有林地内に面積9,000㎡の専用訓練場を確保し、日々訓練を重ねている。このほか林野火災に備えた給散水訓練や水難救助訓練など、訓練内容によっては敷島総合公園、富士川クラフトパーク、広瀬ダムなどを使用している。

また、(2)飛行場外離着陸場に記載しているように、災害時や訓練時のヘリの離着陸のため、県内26市町村の78カ所を整備し、東京国際空港庁の許可を得ている。この他に、捜索・救助の場合、特例として離着陸ができる緊急離着陸場を23市町村に91カ所を確保している。なお、飛行場外離着陸場及び緊急離着陸場の詳細については、別紙2として添付している「市町村別飛行場外離着陸場一覧」のとおりである。

次に(3)運航等についてであるが、にあるように、365日の勤務体制で、運航時間は土曜・日曜含めて、原則として8時30分から17時15分となっている。なお、緊急時は、日の出から日没まで対応している。の運航管理業務については(株)ジャネットに委託しており、今年度の委託額は145,310千円余りとなっている。の運航状況であるが、平成27年度総飛行時間は233時間57分で、救助・救急が69時間32分、火災災害等が5時間31分、本県の航空隊のみで行う訓練等が157時間34分などとなっている。の緊急運航の実績は1ページ一番下の表のとおりで、昨年度は全体で137件となっている。近年は高水準で推移している状況である。件数の内訳は、2ページ一番上の表のとおりで、救助と救急が大多数を占めている。

次に(4)の相互応援協定だが、本県の消防防災ヘリが点検のためなど、飛べない期間については、新潟県、長野県、群馬県、静岡県、埼玉県の各県と平成11年から14年にかけて締結した消防防災ヘリコプター相互応援協定に基づいて、協力し合って山岳救助や林野火災等に対処している。昨年度は長野県が4件、静岡県が10件、群馬県が7件の計21件他県から応援を受ける一方、長野県5件、群馬県2件の計7件本県から応援に行っている。

その下の(5)緊急消防援助隊等であるが、大規模災害時には「大規模特殊災害時における広域航空消防応援実施要綱」また「緊急消防援助隊運用要綱」に基づき、消防庁長官に対して、より広域的な近県へヘリの応援や緊急消防援助隊の出動を要請することができる。昨年の関東東北豪雨においては、9月10日に消防庁長官から山梨県知事に対して、茨城県への緊急消防援助隊の航空小隊としての出動を求められ、これを受け本県消防防災航空隊は同日から12日までの3日間、茨城県の常総市などで活動した。出動人員は隊員、操縦士、整備士を含め延27名、活動内容は救助活動14件、救助人員79名、捜索活動及び情報収集活動が各1件であった。なお、他県の消防防災ヘリの救急状況ですが、エアバス社のA S 3 6 5 - M 3及び三井物産のエアロスペースのA W 1 3 9で救助を行った埼玉県、「あらかわ」2号から4号であるが47名、川崎重工のB K 1 1 7 C 2を用いた茨城県の「つくば」という名称であるが36名、ベルヘリコプター社の4 1 2 E Pを使用した群馬県の「はるな」は35名などとなっていて、本県の消防防災ヘリコプターの救助人員が突出した形となっている。次に3ページの2の組織であるが、県下10消防本部からの派遣職員であり、隊長1名、副隊長2名、隊員5名の計8名の交代制で、365日常時4名以上が勤務している。任期は原則3年間となっている。また、操縦士等の運航従事者については、委託先の株式会社ジャネットの職員が6名常駐しており、内訳は操縦士が2名、整備士が3名、運行管理担当者が1名となっている。さらに、県職員である消防保安課運航管理監1名が勤務して、隊員及び委託会社職員を統括している。

次の3の消防防災ヘリコプターの更新についてであるが、県消防防災ヘリコプター「あかふじ」は、平成7年の運航開始以来20年以上が経過し、部品等の調達が難しくなりつつあり、修理に伴う運休日数の増加が懸念されるなど、業務に支障を来すおそれがあるため、現在、機体更新に向けての手続きを進めている。これまでに入札等を実施して、現在、W T Oの政府調達に関する苦情申し立ての申し立てが3社からあり、そのうち2社についてはその主張が退けられている状況である。

4 その他各種資料については、(1)あかふじの主要経費等(別紙1)、(2)市町村別場外離着陸場一覧(別紙2)、(3)消防防災ヘリコプター基地周辺図(別紙3)のとおりである。

**上記執行部の概要説明の後、質疑はなし。
2班に分かれて県内調査飛行を実施した。**



(2) 【意見交換会】

出席者 本県への移住者の方々

内 容 「やまなし暮らしについて」

主な意見

委員長) それぞれの地域から移住をされてきたと聞いたが、山梨県に移住を決めた理由を簡単に教えてほしい。

出席者) 移住してきて1年半になる。妻と3歳の子供がいる。東京で映像関係、具体的には助監督をしていたが、東京はものすごくお金がかかり、3歳の息子が待機児童になってしまったのを機に環境を変えたいという思いで移住を考えた。山梨県はお互いの実家から丁度良い距離であった。子供がお互いの両親の初孫ということもあるので、いきなり四国や沖縄に行くのは親がかわいそうで、首都圏から3時間の山梨県に移住を決めた。

出席者) 私は東京都品川区出身で大手町に勤務をしていたが、東京が変わっていく姿を見ていられなくなった。非常に気候変動も多く、結婚してからは鎌倉に引っ越して、最初は風光明媚な良いところだと思っていたが、温暖化で海面が上がってきてしまった。海に近いところに住んでいたため、この5年間くらいで、台風の雨と風が非常に強くなってしまった。東日本大地震があり、うちの場合は海拔13メートルなので、津波の危険を感じたため、会社を早期退職して、京都府・長野県・静岡県を旅行しながら移住先を探し、東京出身なので東京に近いところがいいなと思い、山梨県に移住を決めた。その時は山梨県というと、清里と富士五湖くらいしか知らなかった。東京と違い電車社会ではなく車社会で、駐車場も少なく、すぐに満車になってしまうし、土曜、日曜は車が渋滞して動かないのが不便である。この半年間住んで、いちばんうれしかったのは、台風被害が全くないということだ。自宅から10分圏内で病院や買い物、高速道路のインターも近いし、温泉もたくさんあるので、非常に楽しくこの半年間を過ごさせていただいている。

出席者) 私は東京から近いところで、友達とも会えて、ショッピングも手軽にいけるところということで、山梨県がいいのではないかと、やまなし暮らし支援センターの相談員に相談したところ、響が丘を紹介され見学に行った。そこで、一目で気に入って、迷わず決めてしまった。山梨県はとても良いところで健康的に暮らしている。

出席者) 東京で4年間フレンチの店を経営していた。きょう来ていないが、夫がシェフをしていて、三軒茶屋で、お子様歓迎のユニバーサルレトルランの位置づけで経営していた。しかし、三軒茶屋は保育園が激戦区で、うちは縁があって入園できたが、子供が4歳と5歳の年子を育てているため、店をしながら子育てするのは結構壮絶である。長男が来年小学1年生になるが、1年生になるまでに、もう少し生活と仕事を一緒にしたいと思い、また、山梨ワインにも興味があり、山梨県に来たいと思った。あと、南アルプス市におもしろい学校があって、そこに子供たちを行かせたいと思ったこともあり、そこに通える場所ということと、子育て世代の方が旅で来られる場所ということで、電車で約2時間以内、車で約2時間30分以内と考え、さらに季候がいいところということで北杜市が良いということになった。最初は勝沼町で考えていたが、やまなし暮らし支援センターの相談員に北杜市が合っていると進められて、実際に北杜市を見たところ、本当に惚れ込んでしまい移住先として決めた。

出席者) 夫婦で山登りが趣味で、南アルプスや八ヶ岳、奥秩父方面の山に登るために、山梨県に遊びに来ていた。妻が住んでいた環境に近かったし、山梨県で暮らせたらいいなと少しずつ気持ちが傾いていった。夫婦共働きで会社員だったが、妻が体調を壊したこともあって、

こんな生活をあと何十年していけるのかと思い、移住を決めた。山梨県でも仕事をしないと生活できないので、ブドウの栽培を体験させていただけるところで実際に体験をして、このブドウの栽培が出来ればということで夫婦で山梨県に移住して来た。実際来てみると、移住プラス就農という2つの課題があったが、現在は就農8割、移住2割というが、自分としては移住者というより、事業者になったことの方がすごく大きかったと思う。事業が安定すれば、もっと「やまなし暮らし」が楽しめるかもしれないが、今は事業を安定させることを頑張っている。

出席者) 私も登山が好きで良く山梨県に来ていた。今、年齢的には32歳ですが、30歳手前くらいで、地元へ帰るか、東京で長く働いていたので東京にそのままいるか、他のところに行くか三択で考えたときに、登山はずっと続けていきたいことだったので、山の近くに住もうと思い、長野県も考えたが、最終的には蕨崎市に決めた。山が好きでというのがいちばんの理由である。

委員長) なぜ、長野県ではなく山梨県にしたのか。

出席者) 東京から山梨県の方が近かったため。

出席者) 結婚して36年になるが、山梨県は結婚する前、宿泊にも来ていたし、ブドウ狩りもしたし、子供が生まれたり西沢渓谷に行ったりしたので、恐らくいちばん来ている県であった。自分自身40年ほどサラリーマンをして、東京に家を持って頑張ってきたが、その中で2008年のリーマンショックなどを経験して、このままではいけないと思った。また、2011年4月11日の東日本大震災の年は60歳の退職の年であり、その頃から軽井沢に1年くらい通って土地を探していた。でも、北杜市の方が圧倒的に良いという結論になって、その後、自分たちで何か行動を起こそうとしているところに、きょうも来ている相談員に巡り会い、いろいろ協力していただいた。その時に、北杜市役所の地域課の担当に来ていただき、その人と現在でもメールでやり取りをしていて、時々、北杜市役所にお伺いしたりしている。そして、きょうのように山梨県庁から呼ばれて、県議会議員の方と意見交換ができるということで、何かこれはラッキーというか、幸運を持っているなど思っている。そういう不思議な縁を感じて、子供、生活のために働いてきたが、これからは自分が気に入った土地に来たので、現役は何歳ということを決めているので、その年齢まで現役でやりたい。これだけ素晴らしいと、可能性と実りがあるエリアだと思っていて、何とか自分たちも、今後何十年でも貢献したいと思っている。

委員長) 同じような質問になるが、軽井沢にしなかった理由は何なのか。

出席者) これは軽井沢に申し訳ないが、軽井沢で地域の人たちと結構交流したところ、軽井沢は自分たちの中でブランドがある。なかなかプライドが高く、人間が少し違う。実は先週の土曜日、農園の有機タマネギの植え付けをボランティアで手伝ったが、住んでいる人たちが全然違った。

出席者) 生まれも育ちも東京で、夫を支えて36年、主人は外資系の会社でサイボーグのような感じで働いてきた。いよいよ60歳を過ぎて考えてみたら、正直、だんだん疲れてきてしまった。環境的に東京は一極集中型で設備は整っているが、昔から言われるようにコンクリートジャングルで疲れる。どこか出掛けるにしても電車でないと駄目だが、その交通費も結構かかる。ちょっといい設備があったとしても、そこに行くまでに片道電車で1時間以上はかかってしまう。そういった場合に、子供を連れて車で行っても現地に駐車場がないということもあって、年齢的なこともあり、生活していくのが辛くなってきた。そこで地方のほうが暮らしやすいと思った。私の場合は父が長野県出身なので、山を越えて八ヶ岳に来たりしていたが、パワースポットとか力をもらえるところがあって、すごく発想が自由にできる。私達は杉並区の一戸建てに住んでいたが、周りにリタイヤした方が多

くなってきた、日常良く会う機会がふえたのだが、お互いバリアを張っていて、あいさつもできない状況であった。山梨県に来ると近所の皆さんが、よくあいさつをしてくれる。相談員も病院はここがいい、何かあったらここで聞いてというように指導してくれるし、いろいろな方との縁について、おもしろいなと思っている。

委員) 皆さんの話を聞いていて、全員ではないが首都圏に近いという利便性の話をされたが、自然が残っていて、田舎の人たちや自然とのふれあいに良さを感じている。東京の暮らしは辛いという発言があったが、山梨県で解消されたか。

出席者) ずっと東京に住んできたが、杉並区というのは人口が多い。そうすると、いろいろな行事があったとしても、参加しにくいし協力のしようがない。これからは、ゆっくりと広い目で、自由な発想で、東京に住んでいきたいと思ったが、それはちょっと違い、私達の生き方ではないなということを感じてくるようになってきた。特に去年の1月から孫と一緒に住んでいて、孫は年少で幼稚園に行くようになったが、それによって、子供を中心とした世界を見ていくと、東京は住みづらいと思った。

委員) 東京に友達がいるのでという理由があったが、車でも電車でも1時間半くらいで、時々会って食事をしたりできる。日帰りができる位置関係はすごく良いと思う。だが、先程から聞いていると良いことばかりであるが、山梨県に来たが想像とちょっと違うというところはなかったのか。

出席者) お金がかからないという話があったが、丹波山村で私が住んでいる家が4LDKの一軒家で15,000円であり、家計簿を付けてみたが、月11万円で生活ができてしまう。これは金がかからなくていいなと思っていたが、最近、地域おこしのイベントの一貫で、道の駅でコーヒーを売った際に、どれだけ稼げるのかと思ったが、人件費も捻出できなかった。まわりの若い世代にも聞いたが、やはり、お金を持っていない。月15万円は稼げておらず、あまりにお金を持っていなさすぎると思始めている。それでも食べていけないことはないが、結婚とか次のステージに上がるときに、それが足かせになっていて、独身の男性が結構多いので、この場でどう稼いでいったら良いかということを知りたかった。

委員) 山梨県の為に役立ちたいという言葉はいただいたが、皆様方は山梨への移住応援団として、山梨県も人口83万人という危険ゾーンを下回ってしまい、緊急的に人口をふやさなければならぬ状況になっている。できたら山梨県への移住のために、山梨応援団としてどんな応援ができるのか教えてほしい。

出席者) 山梨県に夫婦で来て、こちらの地域に貢献したいという気持ちで来ている。ですから、いろいろとアイデアはあるが、少し大きすぎて、どういう順番でしたら良いかということがある。山梨県は給与所得が低く、コンビニエンスストアを例に取ってみても、東京と同じ価格で売っている。それなのに、こちらの方が時給は低い。昔住んでいた杉並区だったら、生協コープで時給1,000円である。東京の知り合いに山梨県に来るように言っても、給料や住居はどうかと聞かれてしまうと、やはり東京と比べると、それじゃあ駄目だねと二の足を踏んでしまうところもある。そこで、何が出来るかということ、私はティーコーディネーターもしているので、そのうちティーサロン兼キッチン雑貨などの店を経営して、雇用を作りたいと思っている。もう少し町全体が活性化するように、2020年のオリンピックくらいには、大きな企画を考えていきたいなと思っている。もう少し外国人や若い人たちが来られるような企画を、国だけではなく県もするべきだと思っていて、もし、そういうことに力をお貸しできるのであれば、微力ではありますが協力していきたい。

出席者) もう少し移住環境の整備をしなければいけないと思う。個人が思っているもなかなかできないので、官民連携をもっとしてもらいたい。私はこれまで海外で仕事をしてきており、

例えば山梨県の中小企業などたくさんあるので、そういう会社の官と民の間に入って調整等するなどのお力添えをしていきたい。

出席者) 現在、移住相談員をしているので、直接的に移住を考えている方と話しをする機会ばかりで、自分も市の移住者なので、考えていることや不安なことはよくわかる。これから市で応援団を作って、在住者の方と移住者の方のメンバーが、既に十数名いらっしゃるが、その方たちで、お試し住宅などしており、1カ月間実施した中で、地域住民との交流がなかったと指摘を受けたため、今後は交流の場や環境が近い方、年齢が近い方などの交流の場を作りたいと考えている。県においてもそのような場を作ってもらえればと思う。

出席者) 今、自分が実施していることは、山梨県に来て新規就農をしたいという方々がいるので、その方たちと会い、山梨県の農業はこのように感じだということをおアドバイスしている。これは一応先輩就農者としての役割とあって、特に思っているのは、私自身が農業者として稼ぐことである。実際、私のまわりにも、移住就農されている方がたくさんいるが、山梨県に移住する前の収入に届いている人はいない。少なくとも移住前の給与が稼げるくらいに私自身がなり、あとの人たちに、農業でも稼げるんだということを見せていきたいと思う。あとは、山が好きという話をしたが、登山ガイドの資格を取っていて、ブドウジュースやワインを売っているが、物を売っているという意識ではなく、山梨県そのものを売っているんだという思いで商売をしている。ブドウも山もそうだが、山梨県の魅力というものを、ちゃんとお金に換えて、経済的にまわしてやっていくということが、今後の就農者に向けて役に立つんではないかと思っているので、その辺りを中心に考えている。

出席者) 自分たちが田舎に移住したということが、お手本になっていくということが、すごく大きいと思っている。私はもともと編集ライターの仕事をしていて、移住についてのコラムを連載してくださいと言われ、今、連載をしている最中である。それを読んだ方から、山梨県に来ますと言われ、来年の4月から山梨県に移住する家族がいるが、さらに、クラフトビールを造りたい、醸造を始めたいという方がいて、うちにも見学に来て人がある。東京のときのスタッフも来たいと言っているが、その人には待てと言っている。何故かという、単身赴任で来ると言っていて、東京の中野に持ち家があって、奥さんをそこに置いて、こちらに来て時々帰るといって、2つの生活を維持するといふのをしようとしているが、稼ぎが山梨県だと厳しいと思う。本当は歓迎したいのだが、2重生活するには東京でお金を稼ぐ感覚で来られると、少し難しいなと思っていて、彼には待たほうが良いと言っている。私達がこちらでしたいことは、フレンチの店ではあるがオーベルジュ(泊まれるレストラン)で、オーベルジュは、本当は子供は駄目だが、私達はそれを打ち破ってきたので、子供歓迎なオーベルジュといふのを、4月開店を目指してしてやっている。また、近くの農場と仲良くさせていただいて、そのような農の体験といふのは、都会の方はすごく喜ぶ。その農場で、農園でキャンプをするといふことを2回くらいしているが、そのとき、うちは料理を担当して、長テーブルでみんなでご飯を食べるといふのも、とても気持ちいいし、八ヶ岳の広い農場でみんなテントを張ってするのだが、何が良いかという、子供たちが生き生きしている。子供の放牧ができる。東京の母親たちは、すごい人口密度が高い中で子育てしているので、自由に放牧できない。子供だけではなく親も気持ちが放牧感でいっぱいになるので、東京の方にお誘いをしている。

東京と山梨県で離れてしまったが、SNSでやり取りしているのを見ると、子育てですごく悩んでいたり、円形脱毛症になったり書いてある。そういう人たちに、山梨県において声をかけ、イベントなどで来ていただいたりして、そこで、移住なんていふことを考えてくれたらいいなと思っている。いつか移住したいと思っている人は、私達が考えている以上にいるんですが、その背中を押すものがない。その背中を押すものの1つになりたいと思っている。

出席者) 私は8カ月しか住んでいないので、そんなにはないけれども、私は犬を飼っているが、近くに犬を散歩できる公園がない。全部、良い公園は犬の散歩はできないところが多くて、

それにはとてもがっかりした。とにかく、広々とした公園がたくさんあるのに、犬が入れない。八ヶ岳に犬を連れて観光に来る方がたくさんいらっしゃるが、なんでこんなに犬が入れないところが多いのか、もう少し考えていただきたいと思った。また、自分が楽しめる場所や感動できる場所を、たくさん見てまわりたいというのが多く、いろいろまわっているところである。北杜市に古民家を買いたいという友達がいるので、そういった友達を案内したり、もし山梨県に移住したいという方がいたら、積極的に応援したいと思っている。

出席者) 移住するきっかけは人それぞれで、皆さんの価値観が違うので、具体的に自分の目で見て、自分の感性で感じる必要があるので、県内のコーディネーターは不可欠である。右も左もわからないで来て、不動産屋の話だけで決められない。もう1つ、山梨県はいいところだと思うが、恵まれた環境の中で様々な機関が少ないと思う。例えば、八ヶ岳アウトレット、清里もそうだが、昔のイメージで全然変化がない。だから、人はついてこないと思う。観光地として失格だと思う。身近な例でいうと長野県の小布施市は別格に人が多い。設備と地域性、食事もお土産も際立っている。佐久市は郊外型の人と市街地型の人のために、コーディネーターがそれぞれ1人ずついる。生活の面でもバランスシートで的確に見せてくれる。その気にさせ、実際に来てもらうシステム作りがない限りは、こちらに移住しても帰ってしまう人が多いのではないかと。やはり、生活ができないところに人が住むわけがないので、その辺の長めのフォローときっかけづくり、きちっとした責任あるアドバイザーを置いていくことが必要だと思う。

出席者) 役場で10月から移住担当ということでやらせてもらうことになった。今、空き家が80軒あるが、移住者は住宅から入ると失敗すると思う。というのは、結局は人なので、コミュニティに早く入らないとやっていけない。もともといる人たちのニーズを把握して、今住んでいる人たちの意見を取り入れようと動いている。

委員) 両親の実家がブドウ農家である。高齢化してきてなかなか農業の継続ができなくなってきている。一部は親戚の建設会社の方をお願いして栽培をしている状況である。ブドウの関係だったらいろいろ協力できることがあるかもしれないので、よろしくお願したい。いちばん感じることは、せっかく山梨県を選んでもらって、自然が多いというところが決め手になっていることもあると思うが、その中で期待を裏切らない山梨県でなければならない。よって、移住先の環境をどのように整えたら良いか教えてほしい。太陽光パネルなどの問題も多いが、その辺の意見も聞きたい。

出席者) 私は移住してきて2年くらい経つが、太陽光パネルがふえたと確かに感じる。その中で、山林を切り開くパターンもあるが、畑をつぶして太陽光パネルを設置していることも多い。あれは、規則的にありなのかなと思う。穂坂町は少ないと思うが、他の地域は結構ふえているなど感じていて、規則があいまいだという話もあったが、自然環境破壊も危惧するところで、規則作りの必要性を感じる。

出席者) 水の事業化ということを新聞で読んで、すごく不安に思っている。山梨県は水が美しくきれいなところだが、例えば、外資系の会社に水を買われてしまい、それを汚されては困る。太陽光パネルと同じようになっていくと思うと不安なので、監視をしてほしいと思う。

委員) 山梨県は移住したい県の上位であり、東京でも宣伝に力を入れている。皆さんは山梨県に来て何年か経っている方がほとんどだと思うが、まず、移住してきてからこの点は満足しているが、この点は改善してもらいたいというところがあれば教えてもらいたい。

出席者) 言いすぎではなく100%満足している。食事也确实に美味しくなっているし、水もいいので、風邪も全然ひかなくなり健康にもなったので、本当に来て良かったと思う。改善

点は、水道管が古くさびがでる、冬場は破裂も頻繁におこるので不安である。所得の面では、時給などのベースが上がると助かる。

出席者) 温泉については30カ所くらい行って、非常に満足している。あと、少し首をかしげなくなるのが、山梨県の県民性かもしれないが、おもてなしの心がかけていると思う。非常にぶっきらぼうで、これは私だけではなく友人が来て同じことを言う。もう少し繊細なおもてなしをした方が良いと思う。

出席者) 食住に関しては満足している。衣に関しては流行に乗っている店が少ないというのがある。私達は知り合いもなく、山梨県に来たので、移住の相談員の方がいれば相談にも行けるので、相談体制の拡充をお願いしたい

出席者) 満足度は日に日に上昇中である。来たのが1月だったので、本当に閑散としていて寂しかったが、季節が変わりどんどん良くなって、好きになってきている。改善点は大きく言って2つあり、1つは「あずさ号」をもう少し魅力的にしてほしい。例えば、箱根に行くときは「ロマンスカー」に乗るとか、「踊り子号」に乗るとか、すごくわくわくする。しかし、「あずさ号」は全然わくわくしない。出張の会社員ばかりなので出張感満載で、その中に観光客が混ざっている状況で、観光できている人たちは、わくわく感が薄れてしまっている。東京から山梨県まで2時間ということで、この2時間をわくわくさせてもらいたい。もう1つは、農の支援をもっとしてほしい。新規就農で来る人が多いとあって、東京にいて山梨県の野菜を宅配で取っていたりする人たちが、新規就農したいということでこちらに来る方がいると思うが、その人たちがなかなか食べていけないというのがすごく大きい。ターゲットが東京などのオーガニックに興味を持った方で、宅配で定期的に届けるとい形になるが、みんな同じことをしてしまい競合してしまう。その人たちを安定させるにはどうしたらいいんだろうと思う。私達としても仕入れ先になるので、安定してほしい。うちの子供の保育園でメニューを見ていると、全部、山梨県産ではないんです。何でこんなにいい山梨県産の野菜があるのに、他県の野菜を食べるのかと思う。山梨県に新規就農して野菜を作っているところのものを、どうして給食で出さないのかというのが謎である。石川県羽咋市では、幼稚園や小学校は全部自然栽培の野菜にしたと聞き、すごいいいなとあって、そういうことから新規就農したい方が石川県に着目している。八ヶ岳で新規就農をしたいと思っていた方たちが、みんな目線がそちらに行っていると思う。自分たちも仕事をしながら、半農もできる土地なので、そういった形での農の支援をするとうと良いと思う。

出席者) 山梨県の生活は、ほぼ満足している。今まで、帰ろうと思ったことはない。主に農業に関してだが、私は農業大学校でブドウ作りを教えてもらい、その後も先生などと繋がっているし、或いは果樹試験場にも一時期勤めさせてもらい、県にはとても良くしてもらった。改善点は、交通事故が非常に多いと感じる。山梨県に来てから何十件交通事故を見たのかというくらい遭遇している。何がいけないのか解らないが、改善をした方が良いと思う。

出席者) 空き家が問題だと思う。市でも空き家バンクがあるが、登録していない空き家も結構あって、上物をなくして土地だけでも活用できるようなどころがあるが、それもしない。もっと空き家を整備すれば移住ニーズにスムーズに対応出来ると思う。

出席者) 移住してきて1月ちょっとであるが、非常に満足している。ここに来ていちばん良かったことは、目が良くなったことである。東京にいと遠くを見る必要がないので、すごく悪かったが、こちらに来て目が良くなった。あまりにもきれいなものが多くて写真がふえ、メモリーが不足するのが最近の悩みである。あとは、県立の施設を回ったが、図書館は非常に良くてその場で会員になってしまった。今回の移住に関しては、まわりがものすごく驚いていて、会社は辞めるは、家は売るはで、どちらかというみんな心配をしている。今、家を建築中であるが、すでに日本人、外国人合わせて、何十組も家に来たいと言って

いる。そのようなときに、みんなに発信していきたい。

出席者) 景色が良く、富士山やハヶ岳が見えるので満足している。改善点は、バスの本数が少なく乗り心地が悪いうえに料金が高い。山梨県産の野菜等のPRが首都圏でも地元でも不足しているので、地産地消などの発信をもっとした方が良いと思う。また、私達はこの土地で、皆さんに良くしてもらおうのではなく、自分たちから積極的にどんどん仲良く溶け込んでいきたいと思っている。「親切は人のためならず」という言葉があるが、それは人のためではなく自分のためであるわけで、自分たちが積極的に地域の方に話しかけていくことで、すごく住みやすくなっていき、情報もたくさんもらえる。移住者は、もっと地域に溶け込む努力が必要だと思う。

ここで、聞きたいことがあるが、山梨県の目指すコンセプトは何なのか。

委員長) 観光部をいちばん最初に作ったのは山梨県であるし、やはり観光に力を入れている。

委員) 移住希望者に山梨県を選択してもらうには、どんな事が必要と考えるか。東京から近いということもあると思うが、それだけでは、なかなか山梨県に来てくれない。いろいろな意味で情報が少ない、足りないのだと思う。この情報をどのように伝えていけば良いか教えてほしい。

出席者) 有楽町のやまなし暮らし支援センターだけでは難しいと思う。移住者は年齢もニーズも多様化しているので、臨機応変に的確なアドバイスができて、現地で案内できる人が必要だと思う。

委員) 本日は相談員に同席していただいているので、議会への要望等ありましたら、お伺いさせていただきます。

相談員) やまなし暮らし支援センターが開設された3年前と状況は大きく変わっている。全国の競争も激化しているが、一方で山梨県の魅力は距離の面などで優位に立っている。山梨県はもっと観光に力を入れても良いと思う。観光は移住への第一歩で、足を向けた先が移住先になる可能性は高い。受入側の県内の考え方と受入体制の整備が大切になると思われる。本日おいでになっている方々は、山梨県が好きで来てくださっている方々です。観光大使兼移住大使として皆様に活躍してもらい、最終的に県内各地域に相談体制が出来れば良いと思う。

委員) 山梨県の地域おこし協力隊は県として新規就農などについて、町おこしということで御活躍いただいている。地域おこし協力隊で来られている方の県としての交流の場というか、事例発表の場を設けたらどうかという質問を県議会でしたことがある。全国でそういう行事があったかと思うが、山梨県でそういう機会はあるのか。

出席者) 郡内では、1月に1回交流会をしている。

委員) 甲府市は中央商店街がシャッター通りになっていて、地域おこしをどのようにするかということで、大学生の意見などを聞きながらやっているが、情熱を持ってきていただいている地域おこし協力隊の若い皆さんと、自分の住んでいるところで地域をおこしたいと思っている次の人材育成という観点も兼ねて、県一本で集まっただき、それぞれの紹介や事例発表をする場を作ることを県に要望したいと思うがいかがか。

出席者) とても良い機会なので、ぜひお願いしたい。



意見交換会の様子